

主題	ショートステイユニットにおける24時間シートの導入とその後について
副題	新しい取り組みが私たちにもたらしたもの
ケアの質の向上（24時間シート）	ショートステイサービス

研究期間	13ヶ月	事業所	社会福祉法人至誠学舎立川 至誠キートスホーム	
発表者	奥山 豊（おくやま ゆたか）		アドバイザー	宮本 智行
共同研究者	川畑 篤子 高橋 身奈 野口 幸恵 山元 毬瑛 吉原 昂			

電話	042-538-2323	メール	Shisei-kiitos@shisei.or.jp
FAX	042-538-2324	URL	http://www.shisei.or.jp

今回発表の事業所やサービスの紹介	所在地：東京都立川市 平成12年開設。ユニット型特別養護老人ホーム、ショートステイサービス、デイサービス、居宅介護支援の事業を実施。地域包括支援センター（委託）併設。 3階フロアは、ユニット型特養（入居）10名×2ユニットとショートステイユニット10名×1ユニットがある。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

至誠キートスホーム 3階ショートステイユニットでは、次の3つの問題を抱えていた。

①ユニットに入る職員によって持っている情報量やスキルに差があり、統一されたケアが実施できていないこと。②主に一人でユニットに入るため、フロアとしての情報共有が困難であること。③帳票類が多く内容もバラバラのため、目を通すのに時間がかかり、わかりにくさもあったこと。そしてこれらはケアの質の低下を招く要因となっていた。

これらの解決のため、入居者の情報共有ツールとして効果を挙げていた24時間シートの導入を試みたが、フロア職員からの反応も乏しく、担当職員だけの活動では限界があったため、フロア全体で取り組んでいくこととした。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

まずは、ショートステイユニットにおける

24時間シートの導入である。

その前提として、フロア職員全員で関わっていけるようショートステイについての意識の標準化、24時間シートの意義の理解と作成への動機づけを目指した。

シートの導入後は、内容を充実させ、継続的に活用するとともに、利用者・家族のケアに対する反応をフロアにフィードバックさせることで、更なるケアの質の向上を目指す。また、他事業所との連携についても意図的に深める。

《3. 具体的な取り組みの内容》

H24年度9月：フロア全職員を対象に、ショートステイに対するイメージやショートステイ版24時間シートについて問う第1回アンケートを実施。

10月：フロア全職員と看護職員・相談員・ケアマネージャー・施設長を対象に、ショートステイというサービスについて問う、第2回アン

ケートを実施。

11月：ショートステイというサービスについての理解を深めるため、フロア勉強会で、実際に利用されている方を検討事例として挙げグループワークを実施。

12月：ショートステイ利用者家族を対象に、家族にとってのショートステイという存在・ショートステイに望むことを問う第3回アンケート実施。また、フロア勉強会にて24時間シートの書式改訂。全員で分担して作成に取り組む。

1月初旬：順次シートを導入する。

1月下旬：フロア全職員対象に、24時間シートと導入過程における意識変化を問う第4回アンケートを実施。

2～3月：相談員が行う新規利用者の事前アセスメントに24時間シートを使用。また、ショートステイユニットのある2Fでも導入を開始する。

平成25年度4月～：3か月を目安にしたシート更新を実施。

7月～：24時間シート導入から約半年経った時点での第5回アンケート『ショートステイ版24時間シートを導入したことによる変化について』をフロア全職員対象に実施。同時にご家族へ、実際に使用しているシートを提示してケアについての意見や意向を伺い反映していく。また、デイサービスとの情報交換会を設け連携していく。

《4. 取り組みの結果と考察》

ショートステイというサービスについての理解を深め、情報共有のためには24時間シートが有効であることを確認。ショートステイユニットでの24時間シートの導入に至った。

今年度、人事異動により職員体制が新しくなったが、24時間シートを活用しての情報共有は継続。質を落とすことなくケアを提供できおり、情報ツールとして大きな役割を果たすことを実感している。

《5. まとめ、結論》

『ショートステイにおけるケア＝自宅でのケアを継続すること』が重要である。受け入れる側である私たちには、環境変化を可能な限り小さくし、家族が実施しているケアを可能な限り提供することが求められている。

『家族が実施しているケア』と『ショート利用中での具体的なケア』が見える24時間シートを活用することで、職員も安心して他職員と同じケアが提供でき、利用者・家族も安心して利用することができる。そしてそれらがケアの質の向上に繋がっていく。

今後は、家族との関わりを深めることで、より家族の意向に沿ったシートへと内容を充実させ、継続的に活用できるようにしていく。また、他職種・他フロア・他事業所と密に連携し、24時間シートを活用した情報交換・共有を図っていく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、ご本人・ご家族には口頭あるいは文面上で確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

特になし

《8. 提案と発信》

全ての在宅サービス事業所は、利用者と家族の在宅生活継続のために欠かせないサービスです。今、地域での暮らしを支える私たちには、相互に手を取り連携を密にすることが求められているのではないのでしょうか。24時間シートを媒体とした支援の輪を、一緒に広げてみませんか。

【メモ欄】